



県評しずおか

静岡県労働組合評議会

〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 交通ビル3階
TEL 054-287-1293 FAX 054-286-7973
Eメール kenpyo@cy.tnc.ne.jp

あなたの一票で政治を変えよう!

10月27日投票 衆議院選挙

石破茂自民党総裁は、10月1日開会した臨時国会で第102代首相に選出されました。石破氏は、自民党総裁選では早期解散しない姿勢を示していましたが、10月9日に野党の反対を押し切り衆議院を解散し15日公示、27日投票で衆議院選挙が強行されます。

この選挙は、私たちにどうして政治を変えるチャンスです。総選挙を勝利し、今回の選挙で、自民党の裏金づくり、統一教会との選挙協力・癒着な

①全労連の国民的要求、静岡県評の大会要求を基本としながら、各個人・組合員が「こんな政治・政策が実現してほしい」という夢や希望を対話し、学びあいを行なう。②政治の転換と要求実現のため、総選挙は、かならず投票に行

仲間を増やし職場の要求や大幅賃上げを実現させよう 対話と学びあいで労働組合を自分ごとにしよう 平和と民主主義を守り仲間の力で政治を変えよう!

静岡県労働組合評議会 静岡県評第77回定期大会開催



開会のあいさつをする菊池議長

静岡県評は9月14日に第77回定期大会をオンライン併用で開催しました。2025年度の運動方針などの議案を採択、新体制を確立し「仲間を増やし職場の要求や大幅賃上げを実現させよう、対話と学びあいで労働組合を自分ごとにしよう、平和と民主主義を守り仲間の力で政治を変えよう!」をスローガンに新たなスタートを切りました。来賓として全労連・名取学常任幹事、県共闘会議・鈴木英夫代表幹事、日本共産党・鈴木せつ子衆議院選挙候補、労働金庫・松島常務理事からあいさつをいただきました。

開会のあいさつで、菊池議長は「昨年の定期大会からの日々は、大会で確立した『たたかう労働組合のバージョンアップ(ストライキ、統一闘争、仲間づくり)を図る』方針を、どのように具体化させていくのかを模索しながらの1年

物価高騰のなか広がるワーキングプア、そして格差と貧困の解消のためにも、私たちは生活できる賃金、働いたことの実感でできる賃金を求める運動を強めていかなければなりません。労働組合のバージョンアップ、労働組合としての力量を高めていくためには、安易に妥協しない、ストライキも構えながら粘り強い交渉力を持つことが大切です」と呼びかけました。

組織拡大・強化の重点課題を報告

上野事務局長が「24年度運動の総括と25年度のたたかひの方針」について提案しました。4つの要求の柱(①賃上げと最低賃金全国一律化②時短・労働法制改悪阻止③公共を取り戻すこと④軍拡・増税反対改憲阻止)と「全労連運動の新たな飛翔への主な提唱」を柱に組織を強化し、新たな仲間づくりと2万人県評をめざし取り組みの強化を進めること。積極的に対話を進め、本質を見据えるための学び・学習を強化し労働組合のバージョンアップするためにできることを皆さんと精いっぱい取り組み」と報告しました。



大会に参加した代議員のみなさん

代議員からの発言
発言は13名からありました。西部地区労連須部氏「組織拡大と仲間づくり・学習会・レクでの交流」静岡高教組前田氏「浜松特別支援学校建て替え問題」ローカルユニオン静岡河合氏「労働相談の事例から労基法を無視した働かせ方」西部地区労連藤田氏「労働相談の事例から格差是正そして更なる組織拡大へ」年金者組合塚平氏「この間の年金裁判闘争について」東海大教職員組合佐々木氏「この間の闘争について」静岡自治労連小泉氏「24人事院勧告と24秋季年末闘争について」静岡地区労連和田氏「24春闘闘争など」自交総連松下代議員「ライドシニア阻止のたたかい」通信労組田中氏「春闘と



10月1日、静岡県評は、沼津市・静岡市・浜松市の県下3カ所、10月1日から静岡県の最低賃金が、1034円に引き上がることを知らせる宣伝を行いました。行動には、延べ20



静岡での宣伝行動の様子

10月1日より最低賃金 時間額1034円に改定

名が参加しビラ950枚を配布しました。静岡市では昼休みの時間にJR静岡駅北口の地下通路で宣伝行動を行いました。行動には9名が参加し「最低賃金の全国一律制度の法改正を求める請願署名」は31筆集まりました。署名の際の対話では「まだまだ低すぎる」「物価の高騰に追いついていない」という率直な意見を聞くことができました。

隣の神奈川県とは127円の差があることに「これでは、東京・神奈川に人が集まるのもしかたがないよね」だから「全国一律最低賃金が必要」との理解につながることができました。

NTT法廃止阻止のたたかい」全教静岡松下氏「ゆきとどいた教育実現のために」静岡自治労連鈴木氏「パ臨の活動」生協労連平松氏「ユニコープ労組の活動」です。発言の骨子は県評HPに議長挨拶・各団体からのメッセージ・大会宣言等と合わせて掲載してあります。

議長	菊池 仁	常任幹事	岡村 雄馬
副議長	秋野 学	女性部	黒田 貴子
	塚原 一志	会計監事	杉山 智昭
	深田 祐文		鈴木 元
	堀内 慶一		竹村 義人
	松川 功		長澤 裕
	望月 史彦		中村 富美子
	上野 力		櫻井 友隆
	榊原 雅樹		増田 敦子
	市村 直之		石川 哲矢
	浦田 浩幸		大庭 光治
	大石 信勝		笹ヶ瀬 浩人

袴田裁判 これ以上の冤罪 生まないために

9月26日、静岡地方裁判所(國井恒志裁判長)は、袴田巖さんの再審裁判で、死刑判決の重要な3つの証拠(①自白、②5点の衣類、③ズボンの共布)が捜査機関によってねつ造されたものと認定し、無罪判決を言い渡しました。

2014年3月27日の静岡地方裁判所の再審開始と死刑執行停止・釈放の決定に対し、検察が不服申立をしたことで審理の長期化を余儀なくされ、確定まで10年が費やされ袴田巖さんは88歳、姉のひで子さんは91歳と高齢となっています。

静岡地検は9日上訴権を放棄し袴田さんの再審無罪が確定しました。

本件判決は、免田、財田川、松山、島田の各事件に続く戦後5件目の、死刑確定から再審無罪となりました。無実の人を死刑に処するという究極の誤りも、死に起こさないためにも、死刑制度の廃止、人質司法の改善、そして再審法改正など刑事司法の改革が必要です。

地域や職種を超えた 交流で元気にサマセミ

9月21日から23日まで三重県四日市市で「全労連東海北陸ブロック青年交流会第31回サマーセミナーinみえ」（以下サマセミ）が開催されました。

昨年引き続き対面開催となり、東海北陸ブロックの8県のうち6県から49名の参加。全労連青年部からの1名の参加があり計50名で開催されました。地元三重県から多くの参加者があつたことに加え、前回のサマセミが楽しかったからという理由で今年も参加された方もいました。リピーターを増やしつつ、新規参加者も増やしていくというサマセミの目標通りの結果となりました。

一日目はまず参加者同士の交流を深めるため、BBQを行いました。お酒を飲みながらBBQを楽しみ、ステーキ肉をかけたじゃんけん大会などのレクリエーションを経て、多くの参加者との交流ができました。



サマセミ参加の皆さん

BBQ後は宿泊所の会議室を利用し、「ワールドカフェ」を行いました。参加者をまず6つの班に分け、テーマに沿って話をし、時間になったら各自自由に好きなテーマのブロックに行き話をするというのを繰り返すやり方で、多くの参加者と話をする機会ができました。話のテーマは「仕事」「サマセミ」「世界情勢」「推し」など多岐にわたり、笑い声が絶えない時間でした。

二日目は「フォレストアドベンチャー」「御在所ロープウェイ」「伊勢神宮、おかげ横丁」「四日市市内散策」のうち各々が希望するコースを巡りました。コースは違っても、LINEの機能を使い写真を共有しあ

うことで交流を続けました。残念ながら天候には恵まれませんでした。深い霧の写真など悪天候ならではの楽しみができました。

3日目は全体会。石川県から今年の1月に起きた能登半島地震の報告とその報告をもとに意見交換を行うグループワークを行いました。震災の被害の大きさや深刻さを改めて考えさせられたとともに、常日頃からの備えが必要であること、また公助の重要性を学びました。

久保山愛吉氏追悼 焼津のついで

米国の水爆実験によって被ばくした焼津港所属の遠洋マグロ漁船「第五福竜丸」の無線長だった久保山愛吉さんの70回目の命日に当たる9月23日、久保山愛吉氏追悼焼津行動が行われました。主催は、静岡県原水爆被害者の会、原水爆禁止県協議会などです。

「3・1ビキニデー静岡県実行委員会」で、今年には約140人が集まりました。参加者は横断幕などを掲げてJR焼津駅から久保山さんの墓のある同市浜当目の弘徳院までの約2キロを進行「墓前の誓いのついで」で、原水爆被害者の会の機部典子会長代理は「犠牲者や遺族の無念の思いを胸に運動を広げていく」と述べ、核兵器禁止条約への賛同署名の協力を呼びかけました。

静岡県労働研究所No87



報告する北上氏

労働基準法の 適用除外は問題

9月19日、定例研究会が開催されました。「労働基準関係法制研究会の現状と問題点」と題して、北上絃生弁護士が報告しました。労働基準関係法

制研究会のこれまでの議論を第6回でまとめた資料があるので、それを参考にして特徴的な議論の内容を紹介しました。主要テーマとしては、労働時間法制、労働基準法の「事業」、労働基準法の「労働者」、労使コミュニケーション、労働者としての拡大に

対して自由法曹団は、デロゲーションの拡大に反対しています。なぜなら労働者は使用者に経済的・組織的に従属せざるを得ない状況にあり、労働者の真意に反する引下げが行われてしまうことは明らかであるからです。



弘徳院の久保山さんの墓石

【参加者の感想】
今回で2回目の参加になります。色々な方が話しかけてくれて組合の話をして仕事の話をしてたりして繋がるのができたのもよかったです。行く前は同じ職場の方が1人もいないため、話せるかなと不安だったけれど、色々な人と関わって楽しいこともいっぱいあったりしてあつという間の2日間でした。この2日間横のつながりってすごくいいなと感じました。

女性部 定期大会開催

女性部は、9月21日、オンラインを併用し第35回定期大会を静岡市内で開催しました。41名が参加しました。

恒例の文化行事では3人で「持続可能な働き方アンケート」の記述回答を紹介する劇でした。女性たちの本音が表れていました。上野県評事務局長は、あ

能登半島の 連続被災に 支援を

9月21日〜23日にかけて石川県能登半島で発生した豪雨災害では、奥能登地域を中心に河川の氾濫、土砂災害が多発し14人が死亡（10月4日時点）し、行方不明者も多数残されている状況です。



静岡県評は、今回の豪雨災害で亡くなられた方々に心からのお悔やみと被災された方々へのお見舞いを申し上げます。
静岡県評は9月30日に緊急の街頭募金行動をJR静岡駅北口通路で行い合計64168円を集めました。また9月28日から29日にかけて静岡から5名が（化学一般3名・静岡自治労連2名）がボランティアに参加し水害により家屋にたまった泥だし作業等を行いました。あわせて災害救援物資も110kg（静岡県評・通信労組）カップ麺6箱（県国公）水2L×42本を被災地に送りました。県評では皆様の支援力を受け付けています。

いさつの中で、県別ジェンダーギャップ指数（経済分野）で、今年度は正規職の給与格差の大きさが指摘されたこと、県評が発表した「ジェンダー平等宣言」を紹介しました。憲法の「全ての人は平等」に立ち返って、自分事として考え、労働者、家庭、周りの人に話しかけようと思いました。増田部長は、少子化に苦しんでいるフランスが正規職の男性の労働時間を2時間削減したことで出生率アップに転じたことを紹介し、ジェンダー平等も男性の労働時間短縮がなければ実現しないと言いました。

議案提案では、女性部活動休止状態の組合が増える中、定期大会の代議員を定数分揃えるのが困難なため一部の定数を改正する案を出し、採決されました。討論では「子育て応援力



ミニ朗読劇を行う執行部

はたらくみんなの 元気の出る集会

日時：2024年11月10日（日）
13：30～15：45
会場：静岡労政会館3F
「ロッキーセンター大会議室」
講師：立教大学コミュニティ
特任教授 上林 陽治氏

過労死等 防止対策推進 シンポジウム

日時：2024年11月6日
13：30～16：10
会場：プレスタワー17F
（浜松市中央区旭町11-1）
講師：東海林智氏
毎日新聞 社会部記者

労の取り組みを執行部が代読しました。今期で退任する伊東市労連の原さんは「会計年度任用職員の処遇改善に取り組む」とあいさつしました。



写真右…全国のボランティア参加者
写真左…泥だし作業の様子
写真上…街頭カンパの様子

